

# ★★ オープニングメッセージ ★★



スクリーンライター・脚本家  
映画祭顧問  
白鳥 あかね  
しらとりあかね

「もはや数えきれなくなった」

先月、私の地元新百合で、「アートセンター10周年」の記念行事があり、創立メンバーとして表彰された。しかし、「十文字映画祭」とのおつき合いはもうどの位になるのか？ボケ始めた私の頭では、数えることも難しい。けれど、「今年は何を観せてくれるのだろうか？」

期待に胸ふくらませて「心のふるさと」を訪れる日を、待ち望んでいる。

## プロフィール

(協)日本シナリオ作家協会常務理事。脚本家・スクリーンライターとして50年以上映画界で活躍。元日活在籍。新藤兼人監督、神代辰巳監督、今村昌平監督、根岸吉太郎監督らの作品に携わる。『隠し妻』、『鍵』、『折り梅』などの脚本を執筆。『脇役物語』(緒形篤監督と共作)では、キャスティングプロデューサーも兼任。2004年文化庁映画功労賞、2010年川崎市文化賞を受賞。あきた十文字映画祭顧問、川崎市アートセンター映画・映像事業企画・作品選定委員、東京フィルメックス(2010年)審査員、毎日映画コンクール審査員。2014年には「スクリーンライターはストリッパーではありません」を出版。同年、日本アカデミー賞特別賞を受賞。



脚本家・監督  
映画祭顧問  
荒井 晴彦  
あらいはるひこ

去年、隕石落下という過去(震災や戦争)を無かったことにする歴史修正主義のアニメと、南京陥落を祝う提灯行列に参加したかも知れないイノセントな「庶民」の戦争被害を描いたアニメのヒットと高評価について、「今、客が悪い」と書いたら炎上した。俺、PC持ってないから娘に聞いたのだけど。あったことを無かったことにすると、「庶民」の戦争責任を問わないのは通底していると思った。そして、その二本のアニメを支持する観客と改憲勢力に3/4を与えた「大衆」はダブって見える。多数派なのだ。「映画芸術」がベストテンの対象からアニメを外したというので、また炎上しているらしい。実写よりアニメが興行的にも作品の質的にも勝っている現状、世の流れをなぜ認めないのか、ということらしい。改憲の流れに抗うように、アニメの天下という「世の流れ」にも抗いたい。日本人の好きなアメリカのアカデミー賞だって、劇映画とアニメは分けている。アニメに監督賞はあるけれど、女優賞や男優賞は絵が登壇するのか。舞台挨拶は声優がやっているけれど。朝日新聞の「回顧2017 サブカル 私の3点」はアニメ、ゲーム、マンガ、ライトノベルで、アニメは映画の回顧に入らない。俺たちの世代は、右手に「朝日ジャーナル」、左手に「少年マガジン」(「少年サンデー」「漫画アクション」「ヤングコミック」「ガロ」と言われた。今の若者は片方の手に「朝日ジャーナル」を持っていない。

## プロフィール

1947年東京都生まれ。季刊誌『映画芸術』編集・発行人。若松プロの助監督を経て、1977年『新宿乱れ街 いくまで待って』で脚本家としてデビュー。キネマ旬報脚本賞『Wの悲劇』(澤井信一郎監督、1984)、『リボルバー』(藤田敏八監督、1988)、『ヴァイブレータ』(廣木隆一監督、2003)、『大鹿村騒動記』(阪本順治監督、2011)、『共喰い』(青山真治監督、2013)で受賞。橋本忍に並んで最多受賞となる。他、『赫い髪の女』(神代辰巳監督、1979)、『遠雷』(根岸吉太郎監督、1981)、『海を感じる時』(安藤尊監督、2014)、『さよなら歌舞伎町』(廣木隆一監督、2015)など多数の脚本を手がける。『身も心も』(1997)で初監督。18年振りの監督作『この国の空』(2015)で読売文学賞戯曲・シナリオ賞受賞。2018年、4月より日本映画大学特任教授。



俳優  
映画祭顧問  
永島 敏行  
ながしまとしゆき

第27回あきた十文字映画祭の開催、おめでとうございます。

私が映画祭の立ち上げに関わってからもう四半世紀以上経つのですね。あの頃は30代前半でしたが、今は還暦も過ぎ初老の年になりました。正に光陰矢の如しです。でも、今の時代の60代は働き盛り、役者としても60代なりの生き方があります。十文字映画祭がこれからも続く事を励みに、心新たに役者の道を一步一步進んで行きたいと思えます。

映画祭を立ち上げた皆さん、まだまだ頑張りましょう！

## プロフィール

1956年千葉県生まれ。1977年「ドカベン」で映画デビュー。翌年「サード」「事件」「帰らざる日々」と次々に主演し同年の新人賞を総なめ。81年「遠雷」では根岸吉太郎監督と共にブルーリボン賞受賞。91年の映画祭発足以降はアドバイザーとして映画祭を支える。03年十文字町特別功労賞受賞。主な出演映画「透光の樹」(04)「わたし出すわ」(09)「ゴールデンランパー」(10)「HESOMORI-ヘソモリー」。「花子の日記-ビーフのキューブ物語-」(11)「真夏の方程式」(13)「海難1890」。「愛を語れば変態ですか」(15)等。他に WOWOW連続ドラマW「アキラとあきら」(17)等へ出演。本年は、舞台『しあわせの雨傘』(4月より全国公演)と映画「北の桜守」(監督/滝田洋二郎 東映3月全国公開)が控えている。また、都市と地方の橋渡し役をライフワークとしており、秋田テレビ「永島敏行の農業パンザイ! すごい秋田の農業」に出演中。2013年より秋田県立大学客員教授。



映画評論家・プロデューサー  
映画祭顧問  
寺脇 研  
てらわきけん

あきた十文字映画祭は昔からピンク映画を応援してきた。坂本礼監督やいまおかしんじ監督の作品を紹介し、秋田の観客にピンク映画が受け入れられる素地を作ってきたのだ。今回上映される「愛しのノラ〜幸せのめぐり逢い〜」もピンク映画出身の田尻裕司監督作品だ。可愛い猫映画と見せかけて、あのラストに持って行く力業が素晴らしい。こうした「派手さは無いが心を打つ秀作」のセレクトこそが十文字映画祭の真骨頂だと私は考えている。

## プロフィール

1952年、福岡県生まれ。高校在学中から「キネマ旬報」の「読者の映画評」に投稿。東京大学法学部卒業後、文部省に入省。文部科学省退官後の2007年から京都造形芸術大学芸術学部映画学科教授。2011年からは同大学芸術学部マンガ学科教授。「戦争と一人の女」(13)「バット・オンリー・ラヴ」(16)をプロデュース。著書に、『それでも、ゆとり教育は間違っていない』『韓国映画ベスト100』『官僚批判』『ロマンポルノの時代』『文部科学省「三流官庁」の知られざる素顔』などがある。

**祝! 開催**  
十文字映画祭を応援する……

待っていました! 十文字映画祭  
継続は力なり。いつまでも応援します。  
**TOM** 株式会社トータルオフィスマネージメント  
TEL (0182)42-4030  
ホームページ <http://www.toming.co.jp>

各種折詰/血盛/仕出し  
**ごとう**  
後藤幸一  
十文字町本町22  
TEL 0182-42-0248  
42-2339(宅)

当店の部分を切り取ってご来店すると  
有効期限 平成30年3月31日まで  
**ぎょうざ無料** (一人前)  
●お一人様一枚に限らせていただきます  
〒019-0522 十文字町製本字西上51-5  
TEL・FAX 0182(42)0342  
営業時間 11:00~25:00 年中無休  
ラーメン **めん丸** 十文字店

十文字 正五郎 (ランチ営業) 十文字 正五郎 十文字店  
TEL (0182)42-0099  
スポーツバー&カラオケ  
**Re:MIX**  
TEL (0182)42-4477

<http://www.akita-jcf.net/>

十文字映画祭

検索